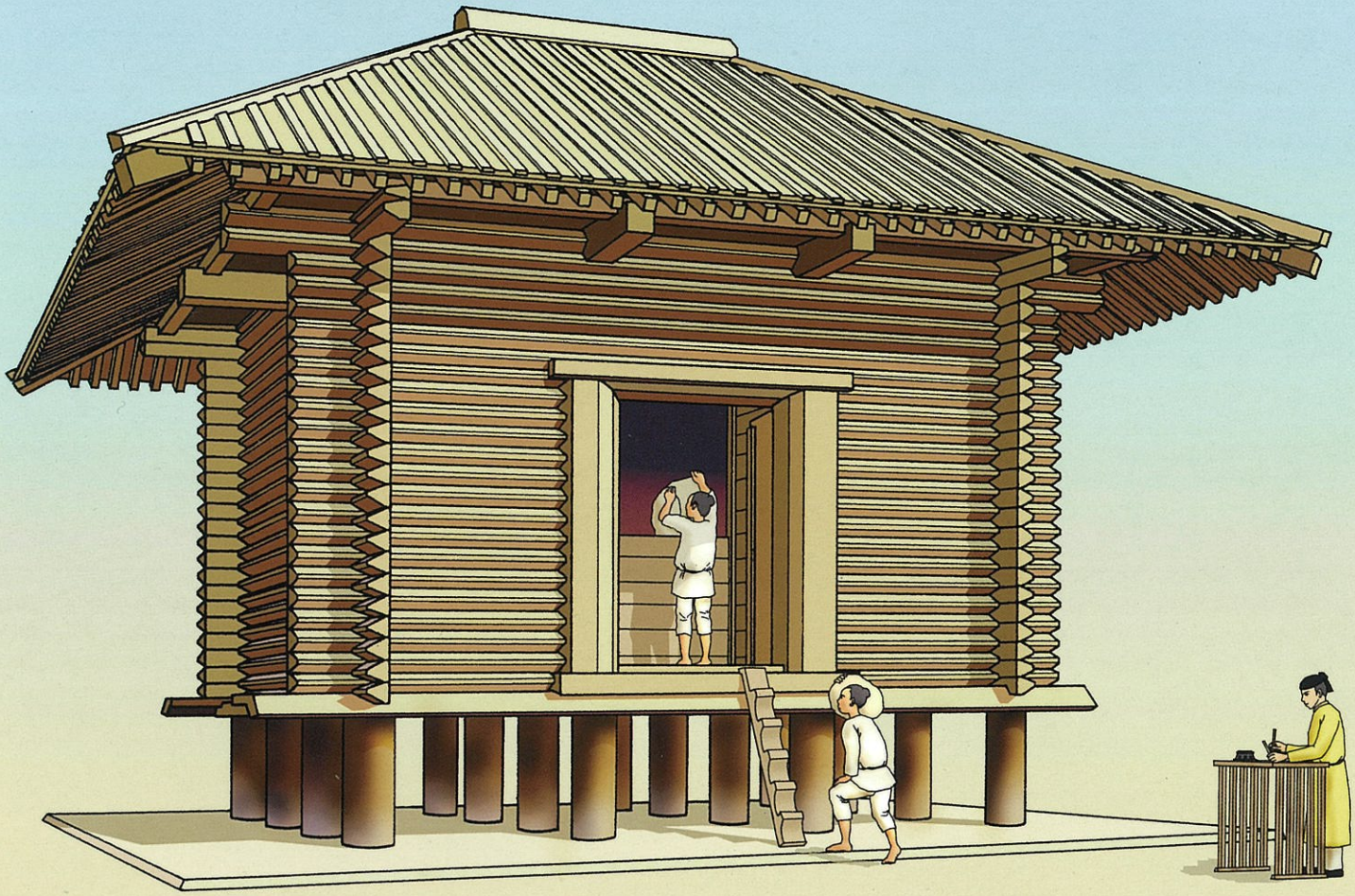
第19回

発掘展

～夏休み！子どものための考古学～



久留倍官衙遺跡　正倉（税を納めた倉庫）　復元イメージ

久留倍官衙遺跡では、飛鳥時代から平安時代（約1,300～800年前）にかけての倉庫の柱穴が数多く見つかっています。

倉庫には、税として納められた稲（もみがらのついたお米）などが保管されていました。

弥生時代の久留倍遺跡（約 2,000 年前）

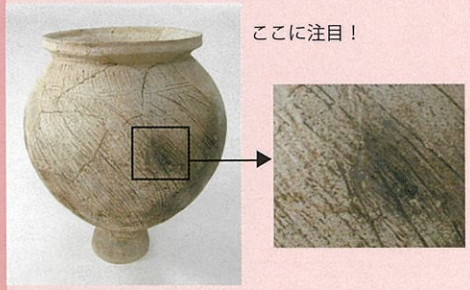
弥生時代の久留倍遺跡の様子

市内大矢知町で見つかった遺跡で、弥生時代（約 2,000 年前）にあったムラの一つが確認されています。

久留倍遺跡では、当時の人びとが生活に使っていた道具類が数多く見つかっています。久留倍遺跡から見つかった弥生土器には、貯蔵に用いられた壺や煮炊きに使われた甕や盛り付けに使われた高坏などがあります。

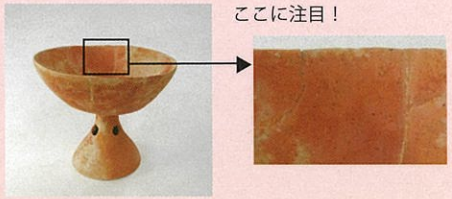
弥生土器　壺

壺の表面は、丸い粘土（写真①）を貼りつけたり、波状の模様（写真①）や羽状の模様（写真②）をつけて、飾られています。



弥生土器　甕

甕の表面は、煮炊きに使ったために、黒いススが付着しています。



弥生土器　高坏

高坏の表面は、赤い色に塗られています。

飛鳥～平安時代の久留倍官衙遺跡　（約 1,300 ～ 800 年前）

建ちならぶ正倉群と区画溝の様子（右端の溝が区画溝の一辺）

久留倍遺跡のなかでも、特に飛鳥～平安時代（約 1,300 ～ 800 年前）の官衙（役所）あとは重要な遺跡であることから国の史跡に指定されました。

国の史跡に指定された部分を久留倍官衙遺跡と呼んでいます。　現在、歴史公園として工事を行っています。

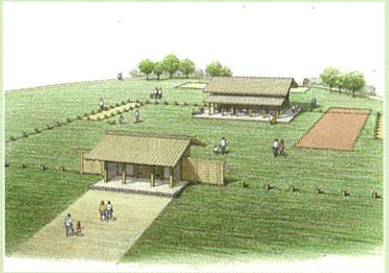
円面硯

円形の奈良時代の硯です。１点のかけら（右下）しか見つかっていませんが、円面硯の一部分と分かります。（左上はレプリカ）

緑釉陶器　碗

緑色の釉薬のかかった碗です。

当時の役所での仕事イメージ

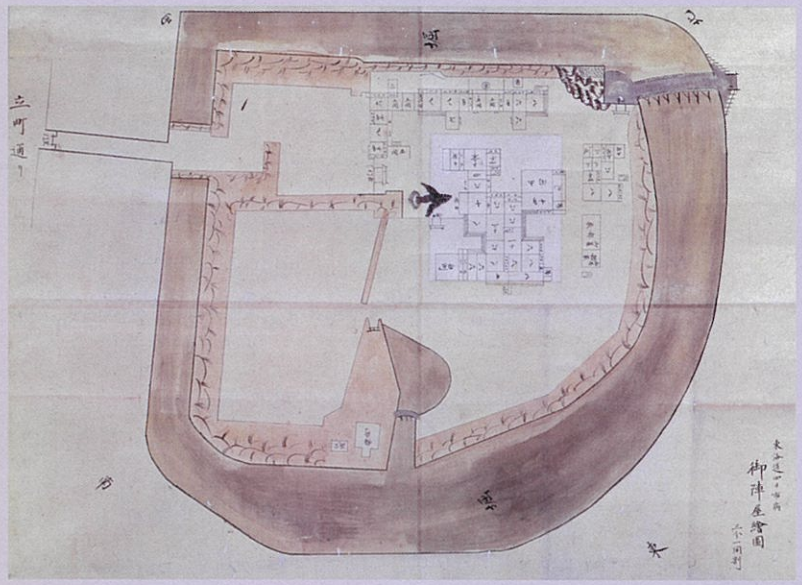


完成後の公園のイメージ

江戸時代の四日市代官所跡　（約４１０～１５０年前）

現在の市内中心部は、享保９（1724）年～享和元（1801）年の大和郡山藩（今の奈良県）領時代を除くと江戸時代を通じて天領（幕府領）でした。

四日市代官所は幕府領支配の拠点で、市内北町の中部西小学校の場所にありました。当初は、江戸と京都・大阪を往復する徳川家康の宿泊施設として設置され、防衛施設としての堀がつくられました。



江戸時代に描かれた代官所の絵図　　個人蔵

写真提供　四日市市立博物館

代官所の土塁（写真の左側）と堀（写真の右側）

ヤタガラスが描かれた板

カラスと鳥居と松などが描かれています。カラスには、３本の足が描かれているので、伝説の鳥であるヤタガラスと分かります。木の枝には、松ぼっくりがついているので、この木が松であることが分かります。

入れ歯（レプリカ）

ツゲの木で作られた入れ歯です。大きさから女性用と推定されています。

第 19 回　発掘展～夏休み！子どものための考古学～

◆会期　平成 28 年 7 月 27 日（水）～8 月 21 日（日）

◆場所　四日市市立図書館　２階展示コーナー

◆編集　四日市市教育委員会　社会教育課

◆発行　四日市市教育委員会　平成 28 年 7 月 27 日